

琉球大学学術リポジトリ

沖縄名護市幸喜方言の終助詞とモダリティ

メタデータ	言語: 出版者: 琉球大学法文学部 公開日: 2016-08-04 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: かりまた, しげひさ, karimata, Shigehisa / 狩俣, 繁久 メールアドレス: 所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/34746

沖縄名護市幸喜方言の終助詞とモダリティ

かりまた しげひさ

1. はじめに

本稿は、沖縄島北部名護市幸喜集落の方言（以下、幸喜方言）の文末にあらわれる終助詞についての報告である。幸喜方言の終助詞には、=sa、=do:、=ja:、=jo:、=te:、=Qsa:、=hī:、=hō:、=muna:、=mune:、=sje:、=hja:がある。また、ふたつの終助詞の複合した=do:ja:、=saja:、=jo:ja:、=sani、sje:=ja:がある。

本稿は、幸喜集落出身の宮城萬勇氏（1915-1983）の書き残した方言ノートに「名護市幸喜方言辞典」（仮題）として出版刊行するため、幸喜集落の依頼を受け、そこに記載された単語の音声と意味と品詞の確認作業をおこなう過程でえられた用例と自然会話に出てきた用例を検討の対象とする。なお、方言資料は暫定的な音韻記号で表記する。話者は幸喜集落在住の M.Y.氏（1916年～2012年）、M.H.氏（1920年生）、O.E.氏（1917年）の三人。いずれも幸喜生まれ育ちで、両親も配偶者も幸喜出身者である。2015年10月6日現在で550回の調査を行なっている。調査は辞典編集のための語彙の確認が中心で、終助詞に関する聞き取りは、調査回数の割に十分なものとはいえない。

2. 文のモーダルなタイプと終助詞

文は、対象的な内容とモーダルな意味を構成要素としてなりたっている。文の対象的な内容とは、人が現実世界の出来事を文のなかに映しとって表現する人やものの動作や変化や状態であり、ものの特性や関係や質である。モーダルな意味は、現実および聞き手に対する話し手の態度である。モーダルな意味は、話し手の確認であり、欲求や決心であり、命令や勧誘や依頼である。文は、モーダルな意味にしたがって、叙述文、希求文、命令文、質問文などの通達的なタイプに分類することができる。

終助詞は、文末の述語に後接し、聞き手との関係のなかで対象的な内容に対

する話し手の通達と認識のさまざまを表わす¹。終助詞は、対象的な内容に対する話し手と聞き手の共通認知のあり方によっても現れ方が異なる。また、対象的な内容が聞き手に関わる聞き手利益への配慮、聞き手に対する態度の違いによっても異なる。

話し手は、何かに動機づけられて、現実世界のできごとを確認し文の対象的な内容にとりこんで叙述文によって伝える。叙述文は、動機づけの違いによって下位のタイプにわかれる。終助詞は、叙述文を下位のタイプに分類するモーダルな意味の表現の一翼を担っている。

3. =sa を含む文

sa は、叙述文にのみ現れ、その対象的な内容は、話し手にとっては既知だが、聞き手にとって未知の情報であり、聞き手に対する配慮（利益性等）はない。話し手の意志、評価、判断を伝える。

sa を含む一人称主語の叙述文は、話し手の意志を伝える。sa を含む二人称主語の文と三人称主語の文は、聞き手や第三者に対する話し手の評価や判断を伝える。

一人称文

一人称を主語にした、sa を含む叙述文は、発話時以降の未来に動作を実現する意志があることを伝える。あるいは、自分の現在の特性や過去の経験などについて伝える。話し手の意志は、発話時以前に聞き手には知りえないものである。うしろの2例は、話し手が意志を表明するにいたった理由がつきそい文にさしだされる。標準語の無標のスル形「じゃあ、僕が持つ。」「俺が行く。」と同じように話し手の意志を伝える。

1) A : *zi:nu kutu=si arasu:raN-si=ru masje-N=do:*

土地=GEN こと=INST 争う・NEG-NMLZ=FOC いい・IND=SPF

「土地の ことで 争わないのが いいよ。」

B : *iN, arasui=ja s-aN=sa.*

うん、争い=TOP する-NEG=SFP

「うん、争いは しないよ。」

2) A : *go:ja i:mi.*

苦瓜.ACC 貰う.NPST-YNQ

「ゴーヤ、貰う？」

B : *abasa: e-ruwa i:=sa.*

アバサー COP-COND 貰う.NPST=SFP

「アバサーゴーヤなら 貰うよ。」

3) A : *ja:=ga=ru ko:-cje:-tu ja:=ga pak-e.*

君=NOM=FOC 壊す-RES-CSL 君=NOM 弁償する-IMP

「君が 壊したんだから、君が 弁償しろ。」

B : *i: wa:=ga pak-u=sa.*

うん。俺=NOM 弁償する-NPST=SFP

「うん。俺が 弁償するよ。」

4) (大学進学のためのお金が家に無いと親に言われて)

daigaku=Ngati ik-u-su akirami=sa.

大学=ALL 行く-NPST-NMLZ.ACC 諦める.NPST=SFP

「大学に 行くのを 諦めるよ。」

5) *nama=ja ai-nu uQsa para-tu-ti nukui=ja ato=ra
para-i=sa.*

今=TOP 有る-GEN だけ 払う-DUR-GER 残り=TOP 後=ABL

払う-NPST=SFP

「今は 有る だけ 払っていて、残りは 後で 払うよ。」

6) *ma:=ni ui-nu cju:-ta buru wa:=ga zini: izja-ci
ugu-i=sa.*

そこ=LOC いる-GER 人-PL 皆.ACC 私=NOM 金.ACC 出す-GER

奢る-NPST=SFP

「そこにいる人たちはみんな (の分を) 私が金を出して 奢るよ。」

7) *unu sigutu=ja wa:=ga ukiti s-u:=sa.*

その 仕事=TOP 私=NOM 受ける-GER する-NPST=SFP

「その 仕事は 私が 引きうけて するヨ。」

8) *ma:=nu kusahai=ja wa:=ga ukimu-ci ha-i=sa.*

そこ=GEN 草刈=TOP 私=NOM 受け持つ-GER 刈る-NPST=SFP

「そのの 草刈は、私が 受け持って 刈るヨ。」

9) *ja:=ga nagi-su wa:=ga ukitumi=sa.*

君=NOM 投げる-NMLZ.ACC 私=NOM 受け止める=SFP

「君が 投げるのヲ 私が 受けとめるヨ。」

10) *ja:=ga uku-te:-nu munu=ja sikar-aN-tu ja=Ngati*

uku-ike:s-u=sa.

君=NOM 送る-RES-GEN 物=TOP 使う-NEG-CSL 君=DAT

送り返す-NPST=SFP

「君が 送った 物は、使わないので、君に 送り返すヨ。」

11) (一緒に名護の町に買い物に行こうと誘っている人に)

ku:=ja icjuna-ha-tu aga tei bici=Ngati=ja ik-ar-aN=sa.

今日=TOP 忙しい-GER-CSL 私 PL. 二人 別=ALL=TOP 行く-ABL-NEG=SFP

「今日は 忙しいから、私たち 二人、別 (名護) には 行けないヨ。」

話し手自身の現在の特性 (能力不可能)、話し手の過去の経験、過去の出来事に対する話し手の態度などを表している。

12) A : *ja:=ga e:-neja i:-su-N=na?*

君=NOM COP-COND 言う-ABL-IND=SFP

「君が なら 言えるの?」

B : *waka-ha-nake=ja i:-su-ta-suga nama=ja i:-saN=sa.*

若い-GER-TIM 言う-ABL-PST-逆 今=TOP 言う-ABL.NEG=SFP

「若いころは 言えたが、今は 言えないヨ。」

13) *pi:zja=ja sikanar-aN-tu pi:zja kuNb-u-su*

mi-ci+m-aN=sa.

山羊=TOP 飼う-NEG-CSL 山羊.ACC 糞る-NPST-NMLZ

見る-GER+見る-NEG=SFP

「山羊は 飼わないから 山羊ヲ 糞るのヲ 見たことがないヨ。」

14) *ari=ga k-aN-ta-tu wanu=ja be:+naNgi sa:=sa.*

彼=NOM 来る-NEG-PST-CSL 私=TOP 倍+疑儀.ACC する.PST=SFP

「彼が 来なかったので、私は 余計な苦勞ヲ したヨ。」

15) *wa:=ga waQ-sa-te:=sa. kuner-e:=hiij.*

私=が 悪い-GER-RESULT=SFP, 堪える-IMP=SFP

「私が 悪かったヨ。 堪忍してネ。」

二人称文

二人称を主語にする sa を含む叙述文は、聞き手に関する話し手の判断や意見を伝える。

聞き手の側に発生している困った状況を克服するために、話し手の知識、経験をもとに話し手の判断や意見を伝える。その判断や意見は、聞き手にとって有益な内容であることもあるが、文末に do: を含む文のような聞き手目当て性は含まれない。

16) *ja: ni:buta u-du-tu je:h-ai=sa.*

君.GEN おでき.NOM 熟む-DUR-CSL 潰す-POT=SFP

「君の おでき、 化膿しているから 潰せるヨ。」

17) *pataki=nu naha=ra kuNki-ci ik-i-neja pe:ku*

畑=GEN 中=ABL 横切る-GER 行く?GER-COND 早い-GER

ik-u=sa.

行く-NPST=SFP.

「畑の 中ヲ 横切って 行くと 早く 行くヨ。」

話し手の意見や判断は、話し手の知識、経験をもとになされたものであり、発話時以前に聞き手との間に共有されていないものである。

- 18) (相手の若者の耳が大きいことから、耳が大きい人は長生きをするということ
ことを教えて)

ja:ja hja:ku=madi m-u:-sa.

君=TOP 百=TERM 見る-NPST=SFP

「君は 百歳まで 生きるヨ。」

- 19) *nama=ra beNkjo: s-iN hakar-aN=sa.*

今=ABL 勉強 する-COND 掛る-NEG=SFP

「今から 勉強しても (あなたは) 受からないヨ。」

話し手の評価を表わす第二形容詞 *masjeN* (いい。ました) に *sa* を後接させた叙述文は、聞き手の行動に対する話し手の評価を伝える。聞き手目当てがなく、出来事の実現は聞き手に委ねられる。

- 20) *wa:=ga=ja i:+goro-ho-tu ja:ga j-u:-su*

masj-e=sa.

私=NOM=TOP 言い+にくい-GER-CSL 君=NOM 言う-NPST-NMLZ

いい-COP=SFP

「私では 言いにくいから 君が 言うのが いいヨ。」

- 21) *anu kutu=ja uminaga-ci wasi-su masj-e=sa.*

あの こと=TOP 思い流す-GER 忘れる-NMLZ.NOM いい-COP=SFP

「あの ことは 思い流して 忘れるのが いいヨ。」

- 22) *pe:-ku umiki-su masj-e=sa.*

早い-GER 思い切る-NMLZ いい-COP=SFP

「早く(忘れて) 思い切るのが いいヨ。」

- 23) *pataki=nu naha=ra kuNki-ci ik-u-su masje=sa.*

畑=GEN 中=ABL 横切る-GER 行く-NPST-NMLZ.NOM いい=SFP.

「畑の 中ヲ 横切って 行くのが いいヨ。」

- 24) *ku:r-e: ja:=ci iQ-ci k-aN-gutu ja:du*

kuN+mici-su masj-e=sa.

閉める-IMP. 家=ADD 入る-GER 来る-NEG-GER 戸,ACC

接+閉める-NMLZ いい-COP=SFP

「閉めろ。(酔っ払いが)家に 入って 来ないように 閉めるのが いいヨ。」

25) *hazjo-ho-tu ja:du ku:-i-su masj-e=sa,*

強風だ-GER-CSL 戸,ACC 閉める-NPST-NMLZ,NOM いい-COP=SFP

「風が強いから、戸ヲ 閉めるのが いいヨ。」

26) *cju:ma=Ngati acimi-ti kuN-tawa-i-su masj-e=sa,*

一か所=ALL 集める-GER 接-束ねる-NPST-NMLZ,NOM いい-COP=SFP

「一か所に 集めて 束ねるのが いいヨ。」

27) *awatar-aN-gutu kimu: isi-ti kaNge:-su masj-e=sa,*

慌てる-NEG-GER 肝,ACC 悩める-GER 考える-NMLZ いい-COP=SFP

「慌てないで 心ヲ 落ち着かせて 考えるのが いいヨ。」

28) *hi:ba: j-aN-su masj-e-ta=sa,*

良い具合に 言う-NEG-NMLZ,NOM いい-COP-PST=SFP

「(君は) いい具合に 言わないのが よかったヨ。」

三人称文

三人称を主語にした、sa を含む叙述文は、第三者に対する話し手の判断や意見が述べられる。話し手の知識、経験をもとになされた判断や意見であり、聞き手との間の情報の共有はなく、聞き手に対する配慮もない。39)の例は陳述副詞 *zjo:i* (絶対に) があり、話し手の強い判断が述べられる。

29) A : *ja: ari=ni kana-i-N=na ?*

君,NOM 彼=DAT 敵う-NPST-IND=YNQ

「君、あいつ(C)に 敵う?」

B : *wa:=ga=ja kanar-aN-suga ari=ga=ja kana-i=sa,*

私=NOM=TOP 敵う-NEG-逆 彼=NOM=TOP 敵う-NPST-IND=SFP

「私ハ 敵わないけど、彼(D)ハ 敵うヨ。」

30) A : *uri=ja daru=ga na-i-ga,*

それ=TOP 誰=が 成る-NPST-WHQ

「それは 誰が できるの。」

B : *kucjo:=ga na-i=sa.*

区長=NOM 成る-NPST=SFP

「区長が できるヨ。」

31) *ti:zjo:ki=ja me:nuja:=ni a-i-ra pazje=sa.*

手+箆=TOP 物置=LOC 有る-NPST-SUPP 箆=SFP

「手付き箆は 物置に あるだろう。」

32) *ku:=ja amimujō: e=sa.*

今日はTOP 雨模様 だ=SFP

「今日は 雨模様だ。」

33) *bici=nu pata e-suga a:s-inc ucja-i=jasu=sa.*

別=GEN 蓋 COP-逆 合わせ-COND 適合する-GER=TOP する.NPST=SFP

「別の 蓋だけど 合わせば 合うことは 合うヨ。」

34) *ku:=ja cja:=nu siN taQ-cju-tu i: kutu: ai=sa.*

今日はTOP 茶=GEN 芯.NOM 立つ-DUR-CSL 良い 事.NOM ある=SFP

「今日は 茶柱が 立っているから 良い 事が あるヨ。」

35) *uri=ja cju=Ngati janaguci=Nka i:+kwe:=sa.*

そいつ=TOP 人=ALL 悪口=DET 言う+喧らう=SFP。

「そいつは 人に 悪口ばかり 言いやがるぜ。」

36) *uri=ja japara-ha-tu, oba tamasu e=sa.*

それは=TOP 柔らかい-GER-CSL 祖母.GEN 分 COP=SFP

「それは 柔らかいから、祖母の 分だヨ。」

37) (知り合いの家の場所を聞かれて)

aQta ja:=ja waQta ja:=nu jaNkusi e=sa.

彼.GEN 家=TOP 私.GEN 家=GEN 家+後ろ COP=SFP

「彼の 家は、私の 家の 後ろだヨ。」

38) *ti:ci=Ngati utusj-e:, aNsi=wa nawi aku=sa.*

一つ=DAT 移す-IMP そうする-COND 鍋.NOM 空く=SFP

「一つに 移せ。 そしたら 鍋が 空くヨ。」

- 39) *jaNme:=ga muQ-cju-ta-ra, pe:+maQsi saN=ri=sa.*
病氣=TOP 持つ-DUR-PST-SUPP. 早+死に する.PST=QUOT=SFP
「病氣ヲ 持っていたのか。 早死に したんだってヨ。」

- 40) *keQsa aga-ciN zjo:i zini: iQci k-uN=sa.*
いくら あがく-CONC ぜったい 銭.NOM 入る-GER 来る-NEG=SFP
「いくら あがいても 絶対に 銭ハ 入ってこないヨ。」

以下の例は、過去形、あるいは継続相非過去形、あるいは結果相非過去形が述語になっていて、話し手によって知覚された実現済みの出来事、あるいは過去に実現し、その結果がのこっている出来事が述べられる。

- 41) A: *daru=ga poroma:i ik-u-ga,*
誰=NOM 畑廻り=ALL 行く-NPST-WHQ
「誰が 畑廻りに 行くの。」

- B: *ja:ja=ga mo:-cja=sa.*
兄=NOM いらっしゃる-PST=SFP
「兄が いらっしゃったヨ。」

- 42) A: *taru=ga cju:-ga,*
誰=NOM 来る-DUR-WHQ
「誰が 来ているの。」

- B: *uNcju:=ga mo:-cju=sa.*
叔父=NOM いらっしゃる-DUR=SFP
「叔父が いらっしゃっているヨ。」

- 43) *ama=nu cju:ja zjusici=ni tuzi hame-ti pe:+riQsiN*
sje:=sa.
向こう=GEN 人=TOP 十七歳=DAT 妻.ACC 娶る-GER 早+立身.ACC
する.RES=SFP
「向こうの 人は 十七歳に 妻ヲ 娶って、早立身 しているヨ。」

44) *ari-ja asipaja: e-tu kisa asi pa-tu=sa.*

彼=TOP 汗かき COP-CSL もう 汗.NOM 流れる-DUR=SFP

「彼は 汗かきだから、もう 汗が 出ているヨ。」

45) *ma:=nu macija=ja ho:imunu+sa: maN-di mo:ki-tu=sa.*

そこ=GEN 店=TOP 買い物+する.NOM 多い-GER 儲ける-DUR=SFP

「その 店は、買い物客が 多くて、儲かっているヨ。」

46) (仕事がどれくらいできたか聞かれて)

ku:=ja niQka=ra sikaki-ta-tu uQpi=Nka=ru na-tu=sa.

今日=TOP 晩く=ABL 仕掛ける-PST-CSL 少量=DET=FOC なる-DUR=SFP

「今日は 晩くから 始めたので、それだけしか できていないヨ。」

47) *cja: iri-ti nage: na-i-tu pigura-ku na-tu=sa.*

茶.ACC 入れる-GER 長い-GER 成る-NPST-CSL 冷たい-GER 成る-DUR=SFP

「茶ヲ 入れて 長くなっているから 冷たく なっているヨ。」

三人称を主語にした、sa を含む形容詞述語文は、主体の特性を表わす。

48) *na: ku:te:mi si:ne akam-u-tu ma:ha=sa.*

もう 少し する-COND 赤くなる-NPST-CSL 美味しい-GER=SFP

「もう 少ししたら 赤くなるから (その実は) 美味しいヨ。」

三人称主語の文だが、対象的な内容が話し手に関わることであり、二人称主語の文に近づいている。

49) A : *nudi=ni gi:=ga haka-tu-ra.*

喉=DAT 棘=NOM 掛る-DUR-SUPP

「喉に 棘が かかっているのかなあ。」

B : *ka:mikas-ine uti=sa.*

かあっと息を出す-COND 落ちる=SFP

「かあっと息を出したら、(棘は) 落ちるヨ。」

50) *cira=nu ubo-ho-riwa cira: arati k-i:ne*

no:i=sa.

顔=NOM 重い-GER-COND 顔.ACC 洗う-GER2 来る-COND
治る-NPST=SFP

「顔が 重いなら 顔ヲ 洗って きたら 治るヨ。」

51) *uri=ja aga tamasu e=sa.*

それ=TOP 私たち.GEN 分 COP=SFP

「それは 私たちの 分だヨ。」

52) *keisacu=ni hasi-mira-ci kuNk-as-u-su*

masj-e=sa.

警察=DAT 捕まえる-CAUS-GER 縛る-CAUS-NPST-NMLZ

いい-COP=SFP

「(泥棒は) 警察に 捕まえさせて 縛らせるのが いいヨ。」

53) (食べきれないほど用意しようとする人に向かって)

kam-u-su maN-du-tu uQsa=ci ita-ha=sa.

食べる-NPST-NMLZ.NOM 多い-DUR-CSL それだけ=INST 良い-GER=SFP

「食べるのが 多いから それだけで いいヨ。」

4. =do:を含む文

do:は、叙述文にのみ現れ、その対象的な内容は、聞き手との間の情報の共有はないが、大なり小なり聞き手の利益につながる情報、あるいは、聞き手の不利益を回避するための情報である。do:を含む文に聞き手に対する何らかの配慮がある点は sa を含む文と異なる。

一人称文

一人称を主語にした do:を含む叙述文の対象的な内容は、聞き手に配慮した話し手自身の動作を表わす。

54) A : *ja:=ga=ru acjer-a-cje-N=na.*

君=NOM=FOC 温める・RES-IND=SFP

「君が 温めたの？」

B: *wa:=ga=ru acjer-a-cje-N=do;*

私=NOM=FOC 温める・RES-IND=SFP

「私が 温めたんだヨ。」

55) (お茶を入れていることに聞き手が気づいていないので、)

cja: iri-te-N=do;

茶.ACC 入れる・RES-IND=SFP

「茶ヲ 入れてあるヨ。」

56) *uNcju: cja: iQ-te-N=do;*

叔父さん、茶=ACC 入れる・RES-IND=SFP

「叔父さん 茶ヲ 入れたヨ。」

57) 食事が済んだばかりなのに相手が知らないで準備しようとしているので

wanu: uri kw-aN=do;

私.NOM それ.ACC 食う・NEG-IND=SFP

「私、それヲ 食べないヨ。」(準備しなくてもいい)

58) (相手の意見を聞き、相手と同意見であることをのべる)

iN wanu=N aNci umu-i-N=do;

うん、私=ADD そう 思う・NPST-IND=SFP

「うん、私も そう 思うヨ。」

二人称文

二人称を主語にする do:を含む文の対象的な内容は、話し手の知識や経験にもとづいて、聞き手に対する配慮のもとに話し手のマイナス評価を述べる²⁾。聞き手に対する禁止が含意される。

59) 生ごみを庭の菜園に埋めている人に、近頃犬が掘り返すことがあるので、

aQ-sa-ku umi-ti=ja masi araN=do;

浅い-GER-GER 埋める-GER=TOP いい NEG.COP=SFP

「浅く 埋めては よくないヨ。」

- 60) *mici=nu maNnaka=ra=ja aQ-ci=ja nar-aN=do:*
道=GEN 真ん中=LOC=TOP 歩く-GER=TOP なる-NEG=SFP
「道の 真ん中ヲ 歩いては いけないヨ。」

条件的なつきそいあわせ文のばあい、つきそい文にさしだされるできごとが実現すれば、あるいは実現しなければ、いいおわり文にさしだされる不利益となる出来事が実現することを伝えながら、つきそい文の出来事が実現しないような、あるいは、実現するような示唆を与える。

- 61) *duku kaNge:+zju:-ha-ne jaNme: ukuri-N=do:*
あまり 考え+強い-GER-COND 病.NOM 起こる.NPST-IND=SFP
「あまり 考えすぎると 病気に なるヨ。」
- 62) *ari=Ngati ukaQtu munu i:-ne: kw-a:i-N=do:*
彼=ALL うっかり もの.ACC 言う-CSL 食う-PASS-NPST-IND=SFP
「彼に うっかり ものヲ 言うと 食われるヨ。」
- 63) *duku awi-ne: kui gusu-mik-aha-i-N=do:*
あんまり 喋る-COND 首.ACC グスつとする-PASS-NPST-IND=SFP
「あんまり 喋ると 首ヲ グスツとされるぞ。」
- 64) *pisa pirugi-ti kuNpar-aN-kine dugeri-N=do:*
足.ACC 広げる-GER2 踏んばる-NEG-COND 転ぶ.NPST-IND=SFP
「足ヲ 広げて 踏んばらなければ 転ぶヨ。」
- 65) *nama=Nti s-aN-kine, ato:=ci kimu: jam-u-N=do:*
今=LOC する-NEG-COND あと=INST 肝.NOM 病む-NPST-IND=SFP
「今のうちに しなければ、あとで 後悔するヨ。」

三人称文

三人称を主語にした do:を含む叙述文の対象的な内容は、第三者に対する話し手の判断や評価であり、聞き手に対する配慮のもとに聞き手にとって有益な

情報、あるいは不利益を回避するための情報として伝えられる。

- 66) *cju:rubaci=ja cju: sik-u-N=do:, ki: siki-ri=jo:.*
アシナガバチ=TOP 人.ACC 突く・NPST-IND=SFP, 気.ACC 付ける・IMP=SFP
「アシナガバチは 人ヲ 刺すヨ。(刺されないように) 気ヲ つけろ。」
- 67) かつて経験した話し手が新しい仕事に就こうとしている人に
anu sigutu=ja uta-i-N=do:.
あの 仕事=TOP 疲れる・NPST-IND=SFP
「あの 仕事は 疲れるヨ。」
- 68) 研いだけばかりの包丁を持っている聞き手に
unu po:cja=ja ziko kiri-N=do:.
その 包丁=TOP すごく 切れる・IND=SFP
「その 包丁は すごく 切れるヨ。」(気をつける。)
- 69) チーズを食べる準備に包丁を持ち出した相手に向かって
unu ci:zu=ja me:=ra kir-aQ-tu-N=do:.
その チーズ=TOP 前=ABL 切れる・PASS-DUR-IND=SFP
「その チーズは 最初から 切れているヨ。」切らなくても食べられるヨ。
- 70) *pi: ka:-ciN ukiri=ci uburi-N=do:.*
火.ACC 消す・COND 熾火=INST 蒸れる・IND=SFP
「火ヲ 消しても 熾火で 蒸れるヨ。」飯が焦げないように火を消せ
- 71) *unu mucu=ja isigiri na-ti hupa-ti kam-ar-aN=do:.*
その 餅=TOP 石切.DAT なる・GER 固まる・GER 食べる・POT-NEG=SFP
「その 餅は 石のようになつて、固くなつて 食べられないヨ。」
- 72) *pi: naga-ha-nu ju: kwi:-raN nage sigutu*
日.NOM 長い・NEG 夜.NOM 暮れる・NEG.GER 長く 仕事.ACC
na-i-N=do:.
成る・NPST-IND=SFP
「日ガ 長くて 日ガ 暮れず 長く 仕事ガ できるヨ。」
- 73) *panazjaki=ni me: sika-tu-N=do:.*

鼻先 DAT 飯.NOM 付く-DUR-IND=SFP

「(君の) 鼻先に 飯粒ガ 付いているヨ。」

- 74) 夏の日の午後、食卓に置きっぱなしになっている食べ物を見て

nage-ku ucj+uk-ine asipaida-i-N=do:

長い-GER 置いて+置く-COND 汗だらけになる-NPST-IND=SFP

「長く 置いておくと 汗だらけになるヨ (餓えて食べられなくなるヨ)。」

- 75) *sjo:ju kiri-tu-tu ho:-ti k-aN-kine ne:N*

na-i-N=do:

醤油.NOM 切れる-DUR-CSL 来る-NEG-COND 無い-GER

なる-NPST-IND=SFP

「醤油ガ 切れているから 買って 来なければ 無く なるヨ。」

- 76) *unu nibuta=ja kusuri siki-raN-kine ubei-N=do:*

その できもの=TOP 薬.ACC 付ける-NEG-COND 化膿する-IND=SFP

「(君の) その できものは、薬ヲ つけなければ、化膿するヨ。」

- 77) (薪を緩く縛っていることに気がついていない聞き手に対して)

cju:ku kuN-tawar-aN-kine putiki-ti barabara

na-i-N=do:

強い-GER 接-縛る-NEG-COND ほどける-GER バラバラ.DAT

成る-NPST-IND=SFP

「強く 束ねなければ、(その薪は) 解けて バラバラに なるヨ。」

対象的な内容が話し合いの場で実現した出来事のばあい、先に気づいた話し手が聞き手にとって有益な情報、あるいは、不利益な事態を回避するための情報として伝える。

- 78) *arihja: kuruma kuN=do: suwa=Ngati jur-e:*

ほら、 車.NOM 来る-NPST-IND 傍=ALL 寄る-IMP

「ほら、車ガ 来るヨ。 傍に 寄れ。」

- 79) *ma:=ni paci ui-N=do:*

そこ=LOC 蜂,NOM いる・IND=SFP

「そこに 蜂が いるヨ。」蜂に気をつけろと警告

質問者から発せられた質問に対して、話し手の所有している情報を伝える。
対象的な内容は、質問者＝聞き手に有益な情報である。

80) A : *ama=nu macija=ja acj-u-N=na:*

向こう=GEN 店=TOP 開く・NPST-IND=YNQ

「向こうの 店は 開いているの？」

B : *na:ma rokuzi=ru e-tu ak-aN=do:*

まだ 六時=FOC COP-CSL 開く・NEG=SFP

「まだ 六時だから 開かないヨ。」

81) A : *na: asabaN kam-ai-N=na:*

もう 昼飯.ACC 食べる・POT-IND=YNQ

「もう 昼飯、食べられる？」

B : *na: kam-ai-N=do:*

もう 食べる・POT-IND=SFP

「もう 食べられるヨ。」

82) A : *waQta: cju: ma:=ni u-i-N=na:?*

私たち.GEN 人.NOM そこ=LOC 居る・NPST-IND=YNQ

「うちの 夫、そこに 居る？」

B : *ii u-i-N=do:*

うん、居る・NPST-IND=SFP

「うん、居るヨ。」

83) (近くにある病院が移転するらしいねと聞かれて)

raineN=ja nagu=Ngati uti-N=di=do:

来年=TOP 名護=ALL 移る・NPST-IND=QUOT=SFP

「来年は 名護に 移るんだってヨ。」

84) (集落共同作業のことを聞かれて)

ku:=ja jamasigutu su:iziri=do:.

今日=TOP 山仕事.NOM 総出=SFP

「今日は 山仕事ハ 総出だヨ。」

形容詞述語文は、聞き手に有益な情報として話し手の評価を述べる。

85) to:pu=ja so:ju haki-ti ko:-ci kam-e:

ma:ha-N=do:.

豆腐=TOP 醤油.ACC かける-GER 崩す-GER 食べる-COND

旨い-GER-IND=SFP

「豆腐は 醤油ヲ かけて 崩して 食べれば 旨いヨ。」

86) cja: iripana e-tu aci-ha-N=do:.

茶.NOM 入れたて COP-CSL 熱い-GER-IND=SFP

「茶、入れたてだから 熱いヨ。」口を火傷しないよう気をつけて飲んでネ。

87) (小さな子が拾ったものを口に入れようとするのを見て)

uri=ja pe:pe:=do: kam-aN-ke.

それ=TOP ベーベ- SFP, 食べる-NEG-PROH

「それは 汚いヨ。 食べるな。」

5. =ja:を含む文

ja:は、叙述文、確認要求の文、疑い文、勧誘文に現れる。ja:を含む文には対象的な内容についての評価や判断の同意を求めるはたらきと、確認を求めるはたらきがある。

5.1. =ja:を含む叙述文

ja:を含む叙述文は、聞き手あるいは第三者に関する話し手の評価や判断を伝えて、同意を求める。今までの調査で一人称文は得られていない。

二人称文

二人称を主語にする ja: を含む叙述文は、聞き手に対する話し手の評価や判断を述べ、聞き手に同意を求める。話し手の評価や判断に対する聞き手の共通認知が必ずしも発話時以前にあるとは言えないが、聞き手自身に関する事なので、求められた同意に応えることができる。なお、あとの例文の述語部分だけを一語文のように発して、nage:haja: (久しぶりだネ)、nage: naiNja: (久しぶりだネ) のようなあいさつの文として固定化している。

88) ja: sugi-tu-N=ja:,

君.NOM 瘦せる・DUR-IND=SFP

「おまえ、痩せているネエ。」

89) ja:=ja iciN kura-ha-N=ja:,

君=TOP いつも きれい-GER-IND=SFP

「君は いつも きれいだネ。」

90) ja:=ja janasikuci atati, naNgi=Nka s-u-N=ja:,

君=TOP 嫌な+仕事.DAT あたる-GER 難儀=DET する-NPST-IND=SFP

「君は 悪い仕事ニ あたって、苦勞ばかり するネ。」

91) me:=ni ika-ti=kara nage-ha-N=ja:,

前=TIM 会う-GER=ABL 久しい-GER-IND=SFP

「前に 会ってから 久しいネ。」

92) ja: nama pi: pi:-taN=ja:,

君 今 屁.ACC 放る.NPST-PAST-IND=SFP

「君、今 おならヲ したネ。」

三人称文

第三者についての話し手の評価や判断を述べて、聞き手に同意を求める。話し手の評価や判断に対する聞き手の共通認知が必ずしも発話時以前にあるとは言えないが、共通の知人やよく知られている事柄、発話場面に発生した出来事に対する評価や判断なので、聞き手は同意要求に応えることができる。

- 93) aNgutu suguriNgwa sin-a-ci icja-ha-nu=ja,
 あんな 優れた子.ACC 死ぬ.CAUS-GER2 惜しい.GER・感嘆=SFP
 「あんな 優れた子ヲ 死なせて 惜しいネ。」
- 94) unu kwa: ziNbunu=ja neN-suga ka:gi=ja kaQ-cu-N=ja:,
 その 子.NOM 知恵=TOP 無い・逆 容貌=TOP 勝つ・DUR-IND=SFP
 「その 子、知恵は ないけど、容貌は 勝っているネ。」
- 95) pu:pu maQ-ci=kara nage-ha-N=ja:,
 祖父.NOM 亡くなる.GER=ABL 久しい.GER-IND=SFP
 「祖父ガ 亡くなってから 久しいネ。」
- 96) anu cju=ja cju:-ha-nu nu:-nu su:bu simi-tiN
 あの 人=TOP 強い.GER-GEN 何=GEN 勝負.ACC させる・COND
kaQcj-u-N=ja:
 勝つ・NPST-IND=SFP
 「あの 人は 強くて どんな 勝負ヲ させても 勝つネ。」
- 97) ama=nu ja:=nu jumi=ja upuwata s-u-N=do:=ja,
 向こう=GEN 家=GEN 嫁=TOP 大+腹 する・DUR-IND=SFP=SFP,
 ma:ga ma:ri-N=ja:
 孫.NOM 生まれる-IND=SFP
 「むこうの 家の 嫁は 大きな腹 しているネ。孫ガ 生まれるネ。」
- 98) ari=ja nage: uQcjaka-tu-N=do:, uka-ha-N=ja:,
 彼=TOP 長らく 伏せる・DUR-IND=SFP. あぶない.GER-IND=SFP
 「彼は 長らく 伏せっているヨ。あぶないネ。」
- 99) anu cju:=ja sikaQtu gaNzju:-ha-nu cju: e-N=ja:³.
 あの 人=TOP とても 丈夫な.GER-GEN 人 COP-IND=SFP
 「あの 人は とても 丈夫な 人だネ。」
- 100) anu ikiga=ja su:ra:-ha-nu umui+buka-ha-nu cju: e-N=ja:,
 あの 男=top 立派な.GER-GER 思い+深い.GER-GEN 人 だ-IND=SFP
 「あの 男は 立派で、思慮深い 人だネ。」
- 101) misorahibari=ja hi:+gura-ha-ta-N=ja:,

美空ひばり=TOP 声+きれい-GER-PST-IND=SFP

「美空ひばりは 美声だったネ。」

- 102) *ikana guna-ha-nu nige: e-ta-Nte:kaN kana-ine*
uso-ho-N=ja:

どんな 小さい-GER-GEN 願い COP-PAST-COND 叶う-COND

嬉しい-GER-IND=SFP

「どんな 小さな 願いで あっても 叶ったら うれしいネ。」

- 103) *aNci ku:=ja sida-ha-nu=ja:*

なんて 今日=TOP 涼しい-GER-感嘆=SFP

「とても 今日は 涼しいネ。」

- 104) (一緒に食事をしている人に)

ku:=nu okazu=ja ku;bc:-ha-N=ja:

今日=GEN おかず=TOP 濃厚だ-GER-IND=SFP

「今日の おかずは コクがあるネ。」

- 105) *anu kwa:+inu=ja uja=ga si-zja-su wakar-aN ci:*

あの 子+犬=TOP 親=NOM 死ぬ-PST-NMLZ.ACC 分かる-NEG 乳.ACC

num-u-N=ci s-u:-suga icja-ha-nu=ja:

飲む-NPST-IND=QUAT する-NPST-逆 痛い-GER-感嘆=SFP

「あの 子犬は 親が 死んだのも 分からず、乳ヲ 飲もうと するが 可哀そうだネ。」

- 106) *aNci ku:=ja sida-ha-nu=ja:*

なんて 今日=TOP 涼しい-GER-感嘆=SFP

「とても 今日は 涼しいネ。」

- 107) *unu kinu ja:=ni uci-N=ja:*

その 服.NOM あなた=DAT 似合う-IND=SFP

「その 服、あなたに 似合うネ。」

- 108) *iQta ja:=nu niwa=ja panagi: maN-di kura-ha-N=ja:*

君ら.GEN 家=GEN 庭=TOP 花木.NOM 多い-GER きれい-GER-IND=SFP

「君らの 家の 庭は 花木が 多くて きれいだネ。」

109) *aga=ga i-zja-nu para=ni hacimitsu neN-ta-N=ja:*
私たち=NOM 行く-PST-GEN 方=LOC 蜂蜜,NOM 無い-PST-IND=SFP

「私たちが 行った ところに 蜂蜜が 無かったネ。」

110) *cikaguru mici+m-aN=ja:*

近頃.TIM 見る-GER+見る-NEG=SFP

「近ごろ (彼に)会ったことないネ (会わないネ)。」

111) *nama magine: ju-i-ta-N=ja:*

いま 大地震.NOM 寄る-NPST-PST-IND=SFP

「いま 大地震が あったネ。」

文末の強調形に終助詞 *ja:* を後接させ、指示的な副詞 *aNci* (そんな、そんなに) を含む強調文は、話し手の驚きを表わす感嘆文になる。この感嘆文の述語に *ja:* を後接させた文は、話し手自身に向けられた確認を表わした、独言に近い発話である。

112) *anu kwa: aNci binara-ha-gisa-ru=ja:*

あの 子.NOM あんなに 病弱-形容詞化辞-FOC=SFP

「あの 子、とても 病弱そうだネ。」

5.2. = *ja:* を含む確認要求の文

述語のラ推量形 4 に *ja:* を後接させた文は、話し手の判断について聞き手に確認を求める。以下の 3 例は、聞き手に関する話し手の判断を述べ、確認を求めている。話し手の判断に対する聞き手の共通認知が必ずしも発話時以前にあるとは言えないが、聞き手自身に関する事柄なので、求められた確認にこたえることができる。

113) (足が痛いという人に対して)

mi:kucu: ku-di, pisa: pagi-tu-ra=ja:

新しい靴.ACC 履く-GER 足.NOM 剥げる-DUR-SUPP=SFP

「新しい靴ヲ 履いて、足 (の皮) 剥けているだろう?」

114) *jurine:saN panapi:pi: s-u:-suga, panasikida:-tu-ra=ja:*

百合姉さん.NOM 鼻+ぐずぐず する.NPST-逆 鼻+引く.GER-DUR-SUPP=SFP

「百合姉さん、鼻ぐずぐず しているが、風邪をひいているんだろう?」

115) みんなから意地悪だと言われている人に向かって

cju:=ga jam-u-N=ri:-ne: ja: uso-ho-ra=ja:

人=NOM 痛む.NPST-IND=QUOT-COND 君.NOM 嬉しい.GER-SUPP=SFP

「人が 痛いと言ったら、お前、うれしいだろう?」

5.3. =ja:を含む疑い文

述語のラ推量形に ja:を後接させた文は、話し手が確認できない出来事(忘れていたり、情報が不完全だったりして)について、しかも、対象的な内容が聞き手にとっても不確かな出来事であると想定される状況で発せられる疑い文である。必ずしも聞き手の応えを求めているが、聞き手が答えることもある。

116) *no:r-agaci:=ru izjas-u-ta-ga-ra ato=ra=ru*

taQkwa:-cja-ra=ja:

綱う-SIM=FOC 出す.NPST-PST-WHQ-SUPP 後=ABL=FOC

くっ付ける.PST-SUPP=SFP

「(綱を) 綱いながら、(小綱を横に) 出したのか 後から くっ付けたの
だろうか。」

117) 若い頃の葬式のやり方が現在と違っていたことが話題になって

so:siki=ja kaQci=ga sa-ra=ja:

葬式=TOP どう=FOC する.PST-SUPP=SFP

「葬式は どのように やったんだろうか。」

述語の疑問詞質問形に ja:を後接させた文も、話し手が確認できない出来事について発せられる疑い文である。自らに確認するように発する。聞き手が想定されず、独り言のように発せられる。119)は疑問詞を文中に含むが、120)は疑問詞を含まない。

118) *hanasi=nu hi: kika-i-suga taru e-ga=ja:.*
 話=GEN 声.NOM 聞こえる-NPST-逆 誰 COP-WHQ=SFP

「話し声が聞こえるが 誰かなあ。」

119) 原因がわからず急に様子がおかしくなった人のことが話題になって

janamunu=ni uk-ah-aQ-ti=ga ui-ga=ja:.
 悪霊=DAT 浮く-CAUS-PASS-GER=FOC いる-SUPP=SFP

「悪霊に 浮かされて いるのかなあ。」

5.4 =ja:を含む勧誘文

述語の勧誘形に ja:を後接させた勧誘文は、聞き手に一緒に動作をおこなうよう勧誘しながら、同意を求める。

120) *o:e=Nka siN masj-e-ku neN-tu na: kuner-a:=ja:.*

喧嘩=限定 する-COND 良い-COP-GER 無い-CSL もう 堪える-INV=SFP

「喧嘩ばかりしても 良くないから、もう 仲直りしようネ。」

121) *wa:=ga tamunu mitakis-e:-tu aga t'ai maNna ik-a=ja:.*

私=NOM 餅.ACC 確保する-RESCSL 私たち 二人 一緒に 行く INV=SFP

「私が 餅ヲ 確保してあるから、私たち 二人 一緒に 行こうネ。」

122) *ku:=nu suku=ja upo-ho-tu, miQcja=ci jamawaki: s-a:=ja:.*

今日=GEN スク=TOP 多い-GER-CSL 三人=INST 山分け.ACC する-INV=SFP

「今日の スクは 多いから 三人で 山分け しようネ。」

123) *mata ato=ra maNna k-a:=ja:.*

また 後=ABL 一緒に 来る-INV=SFP

「また 後で 一緒に 来ようネ。」

124) *wanu: maN-du-tu ja:=ni=N i:r-ah-a=ja:.*

私.NOM たくさん-DUR-CSL 君=DAT=ADD 遣る-CAUS-INV=SFP

「私 たくさんあるから、君にも 上げようネ。」

勧誘形を述語にもつ文は、話し手の意志を表わすことができるが、ja:を後接

させた次の文は話し手の意志を述べながら聞き手に同意を求める。

125) *ja:=ni i-cj-uka=ja:*

君=ADD 言う-GER-置く-INV=SFP

「君に 言っておこうネ。」

6. =te:を含む文

te:は、三人称主語の叙述文に現れ、話し手には直接確認できない未来の自然現象の実現に対する判断、第三者の内的な状態(知覚活動)についての判断を述べる。聞き手に対する配慮はない。発話時以前に話し手と聞き手とのあいだの共通認知はなく、発話時の話し手の判断や評価である。

126) *ku:=ja kuraga-ti ami: e-N=te:*

今日=TOP 暗がる-GER2 雨 COP-IND=SFP

「今日は 暗がって(空が暗くなって) 雨だネ。」

127) *uQsa kuraga-tu-tu ami: pu-i-N=te:*

そんなに 暗がる-DUR-CSL 雨.NOM 降る-NPST-IND=SFP

「そんなに (空が) 暗がっているから、雨が 降るんだネ。」

128) *uQsa kumu-tu-nu-munu: ami: pu-i-N=te:*

そんなに 曇る-DUR-GEN-COND 雨.NOM 降る-NPST-IND=SFP

「そんなに 曇っているもの、雨が 降るんだネ。」

129) (宝くじの話になって)

uri=ja waQta=ni=ja atar-aN=te:

それ=TOP 私たち=DAT=TOP 当たる-NEG=SFP

「それ(一億円)は 私たちには 当たらないネ。」

130) (地面を掘って土中の虫を見つけて食べる犬がいることが話題になって)

unu inu=ja musu=nu utu=ru kicj-u-N=te:

その 犬=TOP 虫=GEN 音=FOC 聞く-NPST-IND=SFP

「その 犬は 虫の 音ヲ 聞いているだネ。」

次の例は、間接確認した出来事を表わす *te:N* (シテアル) 形式を述語にもつ文に *te:* が後接している。うしろの例は、実際には実現しなかった聞き手の行動について、そうでなかった場合を仮定した反事実文である。いずれも話し手の判断や評価を述べる。

131) (茶を飲んで茶の味から沸騰していない湯で入れた味だと気付いて)

kunu cja:=ja ju: wacj-ur-aN-te-N=te:.

この 茶=TOP 湯.NOM 沸く・DUR-NEG-RES-IND=SFP

「この 茶、湯が 沸いていなかったんだネ。」

132) *jakibai=ci no:-te:-nu ba:=te:.*

焼き針=INST 治る・RES-GEN わけ=SFP

「(その病気は) 焼き針で 治ったんだヨ。」

133) (食べきれない量の食事を食べて苦しそうにしている人に対して。)

uQpi=ja nukusje: sim-u-te-N=te:. (反実仮想文)

それだけ=TOP 残す・COND 済む・NPST-RESULT=SFP

「それだけは 残せば よかったネエ。」

次の例は、話し手のことを述べているが、直接確認できない未来のポテンシャルな出来事である。話し手にとってもその実現可能性が不確かなのである。

134) A : *ja: ama i-zi mi-cja-nu kutu a-i-N=na:.*

君.NOM 向こう 行く・GER 見る・PST-GEN こと.NOM ある・IND=SFP

「君、向こうに 行った こと ある？」

B : *ici=gara=ja izi m-u-N=te:.*

いつか=TOP 行く・GER 見る・NPST-IND=SFP

「(無いけど) いつか 行って みるヨ。」

7. =jo:を含む文

jo:は感嘆文と命令文に現れる。感嘆文と命令文とではそのモーダルな意味がおおきく異なる。

7.1 =jo:を含む叙述文

jo:を含む形容詞述語文は、話し手の感情、おどろきを吐露する感嘆文である。聞き手目当ては無く、独り言のように発せられる。

135) *agizjabijo: icja-ha=jo:*

ああ、 痛々しい-GER=SFP

「ああ、痛々しいなあ。」

136) *unu kwa:=ja ma:ri-ti cja:ki=ra nuci+jo:-ho-nu kimu+goro-ho=jo:*

その 子=TOP 生まれる-GER すぐ=ABL 命+弱い-GER-GER 肝+苦しい-GER=SFP

「その 子は うまれた ばかりのころから 病弱で 可哀そうだなあ。」

137) *sakura=nu pana=nu sa-ci kura-ha=jo:*

桜=GEN 花=NOM 咲く-GER2 きれいな-GER=SFP

「桜の 花が 咲いて きれいなあ。」

138) *mi:+du:-ha-nu, nacika-ha=jo:*

目+遠い-GER-強調、 懐かしい-GER=SFP

「久しぶりだなあ。懐かしいなあ。」

139) *maruke:ti a:-ti nacika-ha=jo:*

久しぶりに 会う-GER2 懐かしい-GER=SFP

「久しぶりに 会って 懐かしいなあ。」

140) *nage: a:-ranu nacika-ha=jo:*

久しく 会う-NEG-GER 懐かしい-GER=SFP

「久しく 会わず 懐かしいなあ。」

141) *ari=ga karazi uro-ho=jo:*

彼=GEN 髪.NOM 細い-GER=SFP

「彼の 髪 細いなあ。」

142) *asabaN kam-i-ga ukuri-ti cja:-tu*

kami+paN-ci=jo:

昼飯.ACC 食べる-GER-PURP 遅れる-GER2 来る.PST-CSL

食べ+外す-GER2=SFP

「昼飯ヲ 食べに 遅れて 来たから 食べそこなってネエ。」

7.2 =jo:を含む命令文

jo:を含む命令文（禁止を含む）は、出来事の実現に聞き手への配慮を含んだやわらかい命令表現の文である。

143) *aha-sa-nu uci=ni ke:ti hu:=jo:*

明るい-GER-GEN うち=TIM 帰る-GER2 来る.IMP=SFP

「明るい うちに 帰って 来てネ。」

144) *hanigiri uka-ha-nu, misuku aQk-i:=jo:*

金属片.NOM あぶない-GER-GER 用心して 歩く-IMP=SFP

「金属片ガ（あって）危ないから 用心して 歩いてネ。」

145) *neNkiN=ja ju:biNkjoku=ci ukitu-i-Nso:ri=jo:*

年金=TOP 郵便局=INST うけとる-GER-HON-IMP=ね

「年金は 郵便局で おうけとりくださいネ」

146) *na:=ja hjaku=madi mi-Nso:ri=jo:*

あなた=TOP 百=TER 見る-HON-IMP=SFP

「あなたは 百歳まで 生きてくださいネ。」

147) *ma:=ja aja-ha-tu ju: mi-ci aQk-i:=jo:*

そこ=TOP 妖しい-GER-CSL よく 見る-GER2 歩く-IMP=SFP

「そこは 危ないから よく 見て 歩いてネ。」

148) *iQta=ja tusi we:kiNcju e:tu, dikas-i:=jo:*

君たち=TOP 年.GEN 金持ち COP-CSL がんばる-IMP=SFP

「君たちは 年(の) 金持ちだから、がんばってネ。」

149) *uri=ja kusar-as-una=jo: pe:ku kam-i=jo:*

それ=TOP 腐る-CAUS-PROH=SFP, 早い-GER 食べる-IMP=SFP

「それは 腐らせないでネ。早く 食べてネ。」

150) *kwa: cjuj=Nka ma:=ni niNb-as-una=jo:, niN-tu-nu*

子.ACC 一人=DET そこ=LOC 寝る-CAUS-PROH=SFP, 寝る-DUR-GEN

kwa: hakazi-tu,

子.ACC かじる-CSL

「子供ヲ 一人だけ そこに 寝かせるなヨ。寝てる 子ヲ (マンガースガ) かじるから。」

相手の行動によって話し手に利益がもたらされるような内容であれば、依頼を表わす。

151) A : *ja: na:ma jumipatir-aN=na:*

君.NOM まだ 読み終わる-NEG=YNQ

「君、まだ 読み終わらないの。」

B : *na: kuteN-gwa:=ci jumipati-N,*

もう 少し-DIM=INST 読みおわる-IND

「もう 少しで 読みおわる。」

A : *asa wanu=ni kar-as-i=jo:*

そしたら 私=DAT 貸す-CAUS-IMP=SFP

「そしたら 私に 貸してネ。」

152) *cja:kina muQ-ci hu:=jo:*

すぐ 持つ-GER2 来る-IMP=SFP

「すぐ 持って 来てネ。」

8. =hī:を含む文

命令文の文末に現れ、聞き手に対する敬意の度合いを高める。hō:よりも敬意の度合いは低い。同じく命令形に後接する jo:が第一命令形に後接するのに対

して、hī:は第二命令形に後接する。なお、第一命令形が単独で使われる例を確認できていない。

153) *na: niQka na-tu-tu ke:r-e:=hī:*

もう 晩く なる-DUR-CSL 帰る-IMP=SFP

「もう 晩く なっているから 帰ってネ。」

154) *nu: j-aQ-tiN kuner-e:=hī:*

何.ACC 言う-PASS-COND 堪える-IMP=SFP

「何を 言われても こらえてネ。」

155) *wa:=ga waQ-sa-te:=sa, kuner-e:=hī:*

私=NOM 悪い-GER-RESULT=SFP, 堪える-IMP=SFP

「私が 悪かった。堪忍してネ。」

156) *wa: munu=madi ho:-ti tur-asj-e:=hī:*

私.GEN 物=DET 買う-GER 取る-CAUS-IMP=SFP

「私の 物まで 買って くださいネ。」

9. =hō:を含む文

疑問文、命令文の文末に現れ、聞き手に対する敬意の度合いを高める。hī:よりも敬意の度合いは高く、尊敬動詞に後接する。hō:が命令文に現れるとき、命令文の述語は第二命令形である。

157) *da:=ci mo:-i-ga=hō:*

どこ=INST いらっしゃる-NPST-WHQ

「どこにいらっしゃいますか。」

158) *nu: si-Nso:-i-ga=hō:*

何.ACC する.GER-HON-NPST-WHQ=SFP

「何ヲ なさっているのですか。」

159) *wa: munu=madi ho:-ti tur-as-iNso:r-e:=hō:*

私.GEN 物=DET 買う-GER 取る-CAUS-HON-IMP=SFP

「私の物まで 買って くださいネ。」

- 160) *wa:=ga waQ-sa-te:=sa, kune-ti tur-as-iNso:r-e:=hō:*
私=NOM 悪い-GER-RESULT=SFP, 堪える-GER 取る-CAUS-HON-IMP=SFP
「私が 悪かった。堪忍して くださいネ。」

10. =Qsa:を含む文

Qsa:をともなう叙述文の対象的な内容は、話し手の内的な状態、第三者に対する話し手の評価である。話し手の心情および評価が独り言のように発せられる。聞き手との情報の共有もなく、聞き手への配慮もない。

- 161) *cikaguru siwagutu upo-ho-nu kimu+aNma-ha=Qsa:*

近ごろ 心配事.NOM 多い-GER-GER 肝+怠い-GER=SFP

「近ごろ 心配事が 多くて 億劫だなあ。」

- 162) *dusi=tu=nu jakusiku nar-a-nu kimu+tagai s-u=Qsa:*

友=DAT=GEN 約束.ACC 果たす-NEG-GER 肝+違い する-NPST=SFP

「友との 約束が 果たせず、落ち着かないなあ。」

- 163) *wanu=ja kinu siNbuN jum-aN-ta=Qsa:*

私=TOP 昨日.TIM 新聞.ACC 読む-NEG-PST=SFP

「私は 昨日 新聞ヲ よまなかつたなあ。」

- 164) *ku:=nu misuziru=ja sipu+kara-ha=Qsa:*

今日=GEN 味噌汁=TOP 塩+辛い-GER=SFP

「今日の 味噌汁は 塩辛いなあ。」

- 165) (車で悪路を走っているとき)

mici=nu waQ-sa=Qsa:

道=NOM 悪い-GER=SFP

「道が 悪いなあ。」

- 166) *anu ikiga=ja iziri maN-du=Qsa:*

あの 男=TOP 意地.NOM 多い-DUR=SFP

「あの 男は 意地 (勇氣) が あるなあ。」

167) *anu kwa:=ja bici=nu kwa:=jako=N cju:i ni:-ha=Qsa:.*

あの 子=TOP 別=GEN 子=COMP=ADD 成長.NOM 遅い=GER=SFP

「あの 子は 別の 子よりも 成長が 遅いなあ。」

168) *tunai=nu kwa:=ja beNkjo: kiwa-tu=Qsa:.*

隣=GEN 子=TOP 勉強.ACC 頑張る-DUR=SFP

「隣の 子は 勉強ヲ 頑張っているなあ。」

11. =muna:を含む文

話し手と聞き手に共通の認識としてあったことを聞き手がわすれていたたり、気がついていなかったりしているとき、聞き手に記憶を呼び起こさせたり、気づかせたりする意図をもつて伝える。聞き手への非難のニュアンスを伴うことがある。muna:には、音声的な変種として mana:がある。なお、muna:は、聞き手が目下や同年配の人のばあいに使用され、目上の人には mune:が使用される。

169) (今日は寝足りないと言っていた人に)

terebi m-a:gaci: turuturu s-u:-ta-N=mana:.

テレビ.ACC 見る=GER うとうと する-NPST-PAST-IND=SFP

「(君は) テレビヲ 見ながら うとうと していたじゃないか。」

170) (写真をみていて、思いがけずそこに相手の写っているのに気づいて)

ja:=N uti-tu-N=muna:.

君=ADD 写る-DUR-IND=SFP

「君も 写っているじゃないか。」

171) *kam-aN kam-aN=ka s-u:-ta-suga kam-u-N=muna:.*

食べる-Neg 食べる-Neg=DET する-NPST-PST-逆 食べる-NPST-IND=SFP

「食べない、食べないってばかり 言っていたが、食べているじゃないか。」

172) (多すぎるから全部は食べられないと言っていた人に)

buru ka-di ne:N=muna:.

みんな 食べる=GER 無い=SFP

「全部 食べて しまっているじゃないか。」

- 173) *ja: mi:kucu ho:-te-ta-N=mana.*
 君.NOM 新+靴.ACC 買う・RES-PST-IND=SFP
 「君 新しい靴ヲ 買ってあったじゃないか。」
- 174) *ik-u-N ik-u-N si: da: ik-aN=muna:.*
 行く・NPST-IND 行く・NPST-IND する.GER2 ほら 行く・NEG=SFP
 「行く 行くと 言って、ほら 行かないじゃないか。」
- 175) 妙なやり方をして手間取っている人に向かって
uri=jaka masje-nu ho:ho: a-i-N=muna:.
 それ=COMP まし・GEN 方法.NOM 有る・NPST-IND=SFP
 「それより ましな 方法ガ あるじゃないか。」
- 176) (探し物が見つからないとこぼしていた人に)
ma:=ni a-i-N=muna:.
 そこ=LOC 有る・NPST-IND=SFP
 「そこに 有るじゃないか。」
- 177) *kuNbiguci diQpaNgwa: kuNb-aQ-tu-N=muna:.*
 結び目.NOM ちゃんと 結ぶ・PASS-DUR-IND=SFP
 「結び目 ちゃんと 結ばれているじゃないか。」

12. =mune:を含む文

話し手と聞き手に共通の認識としてあったことを聞き手がわすれていたたり、気がついていなかったりしているとき、聞き手に記憶を呼び起こさせたり、気づかせたりする意図をもつて伝える。聞き手への非難のニュアンスを伴うことがある。なお、この終助詞は、聞き手が目上の人とのばあいには使用され、目下や同年配の人とのばあいには *muna: (mana:)* を使用する。

- 178) (探し物が見つからないとこぼしていた人に)
ma:=ni a-i-N=mune:.
 そこ=LOC 有る・NPST-IND=SFP
 「そこに 有るじゃないか。」

179) *na: kam-aN=ri-ta-suga ka:gi-N=mune:.*

食べる・NEG=QUAT-PST-逆 召し上がる・NPST-IND=SFP

「もう 食べないって言っていたが、召し上がっているじゃないか。」

180) (多すぎて全部は食べられないと言っていた人に)

buru ka-di ne:N=mune:.

みんな 食べる・GER 無い=SFP.

「全部 食べて しまっているじゃないか。」

181) *ik-u-N ik-u-N si: da: ik-aN=mune:.*

行く・NPST-IND 行く・NPST-IND する・GER2 ほら 行く・NEG=SFP

「行く、行くと 言って、ほら 行かないじゃないか。」

13. =sje:を含む文

sje:を後接させた叙述文は、聞き手が忘れていたり気づいていなかったりする出来事を気づかせるようにいう。

182) (ミミズクを見たことが無いと言っている人に以前屋敷内で鳴いていたのを指摘)

jasiki=nu ki=NtiN nak-u-ta=sje:.

屋敷=GEN 木=LOC=ADD 鳴く・NPST-PST=SFP

「屋敷の 木でも 鳴っていたさ。」

183) *cira: pa:pa: s-u:-suga nici=ja neN=sje:.*

顔.NOM ポッポ する・NPST=逆 熱=TOP 無い=SFP

「顔ガ ポッポとするが 熱は ないヨ。」

184) *janasaQkui s-u:-suga muni was-sa-ku neN=sje:.*

変な咳.ACC する・NPST=逆 胸.NOM 悪い・GER-GER ない=SFP

「変な咳ヲ しているが、胸は 悪く ないヨ。」

14. =hja:を含む文

- 185) *me:naci asani=Nka si: haku ukir-an-i=hja:*
毎日 朝寝ばかり する.GER2, 早く 起きる-NEG-YNQ=SFP
「毎日 朝寝ばかり して。早く 起きないか。」

15. =waNを含む文

- 186) *siNsi: e:-gisa-suga moNbaN=ru e:=waN.*
先生 COP-ADJLZ=逆、 門番=FOC だ=SFP
「先生の ようだが 門番じゃないか。」

II 複合終助詞

幸喜方言には二つの終助詞を重ねた複合的な終助詞=*do:ja:*、=*saja:*、=*jo:ja:*、=*sani*、=*sje:ja:*がある。

16. =do:ja:を含む文

*do:ja:*を含む叙述文は、聞き手の所有していない情報、誤った情報に対して、話し手の所有している情報を伝えながらその発話内容を確認する。聞き手に対する配慮がある。

一人称文

*do:ja:*を含む一人称の叙述文は、話し手自身の行動、話し手に関わる事柄について述べながら聞き手に確認する。

- 187) A : *ma: asa-te:-su-ga taru=ga asa-ta-ga ?*
そこ.ACC 漁る-RES-逆 誰=NOM 漁る-PST-WHQ
「そこ 漁ってあるけど 誰が 漁ったんだ。」
B : *wa:=ga=ru asa-ta-N=do:ja:*
私=NOM=FOC 漁る-PST-IND=SFP
「私ガ 漁ったんだヨ。」

- 188) A : *unu sa:ta kami+jaQ-sa-nu gutu kudak-e:*

その 砂糖.ACC 食べる+易い-GER-GEN 如く 砕く-IMP

「その 砂糖 食べやすいように 砕け。」

B : na: kisa kuda-cja-N=doja.

もう さっき 砕く-PST-IND=SFP

「もう 既に 砕いたヨ。」

189) ju:gwa:damunu tu-ti atu=nu juda pu:ti+zja-N=doja.

薪.ACC 取る-GER 後=GEN 枝.ACC 拾う-GER+来る. PST-IND=SFP

「薪ヲ 取って 後の 枝ヲ 拾って来たんだヨ。」

190) bo:=ci zi:=ni ha-cje-nu zi: pisa=ci kuN-cja-N=doja.

棒=INST 地面=DAT 書く-RES-GEN 字.ACC 足=INST 崩す-PST-IND=SFP

「棒で 地面に 書いた 字ヲ 足で 崩した (消した) ヨ。」

191) ある家の葬儀に行くかどうか息子に尋ねられて

wanu=ja anu cju:=tu kwa: piQ-ci=ja u-i-N=doja.

私=TOP あの.GEN 人=COM 子.NOM 引く-GER=TOP いる-NPST-IND=SFP

「私は あの 人と 血が 繋がっては いるヨ。」

192) ama=nu ja:=tu=ja kwa: piQ-ci e:ka=ru eN=doja.

向こう=GEN 家=COM=TOP 血.NOM 繋がる-GER 親戚=FOC COP=SFP

「向こうの 家とは 血が 繋がっていて 親戚だヨ。」

二人称文

do:jaを含む二人称の叙述文の対象的な内容は、話し手の知識や経験にもとづいて、聞き手に行動に対する話し手の判断を述べながら確認する。聞き手に対する配慮がある。

193) uja=Ngati kuci ke:-ci=ja nar-aN=do:ja.

親=DAT 口.ACC 返す-GER2=TOP 成る-NEG.IND =SFP

「親に 口答えしては いけないヨ。」

194) de:kuni mak-u-nu ba:=ja pisi-ku=ru makuN=do:ja.

大根.ACC 蒔く-NPST-GEN 場合=TOP 薄い-GER=FOC 蒔く-NPST-IND=SFP

「大根ヲ 蒔く ときは 疎らに 蒔くんだヨ。」

195) *cju:Ngwa e-tiN ame-ra-ci=ja nar-aN=do:ja:*

一人っ子 COP-ADVRS 甘える-CAUS-GER=TOP なる-NEG=SFP

「一人っ子でも 甘やかしては いけないヨ。」

196) *basu=nu naha=Nti=ja pisa kuNpar-aN-kine*

dugeri-N=do:ja.

バス=GEN 中=LOC=TOP 足.ACC 踏んぼる-NEG-COND

ひっくり返る-IND=SFP

「バスの 中では 足ヲ 踏んばらないと、ひっくり返るぞ。」

197) *ju:su kik-aN-kine ucidar-ah-ai-N=do:ja:*

言う-NMLZ.ACC 聞く-NEG-COND 殴る-CAUS-PASS-IND=SFP

「言うことヲ 聞かなければ 殴られるぞ。」

三人称文

聞き手が知らない情報を確認しながら、与えている。

話し手と聞き手の前にあるが、聞き手がまだ十分に理解できておらず、聞き手に情報を与えながら、その状況の確認している。

198) A: *waQta: cju: ma:=ni u-i-N=na:?*

私たち.GEN 人.NOM そこ=LOC 居る-NPST-IND= YNQ

「うちの 夫、そこに 居る？」

B: *i: i: ur-aN=do:ja:*

ううん、居る-NEG=SFP

「ううん、居ないヨ。」

199) (現市長が何故慕われているか話題になって)

ziko: munu: waka-tu-nu cju: e-Nso:-i-tu

ugam-ar-i=ru

とても 物.ACC 分かる-DUR-GEN 人 COP-HON-NPST-CSL

拝む-PASS-NPST=FOC

s-u-N=do:ja:

する-NPST-IND=SFP

「(市長は)とても 物事が 分かっている 人だから、尊敬されるんだヨ。」

200) *paNta kuziri-ti mici ku:-ti aQk-ar-aN-ku*

na-tu-N=doja.

崖.NOM 崩れる-GER 道.ACC 閉める-GER 歩く-POT-NEG-GER

なる-DUR-IND=SFP

「崖が 崩れて 道ヲ 閉鎖して 歩けなく(通れなく) なっているヨ。」

201) *buru=ci kimi-te-su mata mutu=Ngati uQ-ke-tu-N=do:ja:*

皆=INST 決める-RES-NMLZ.NOM また 元=ALL 返る-DUR-IND=SFP

「皆で 決めたのが また 元に ひっくり返っているヨ。」

202) *kwaicjo:=ja anu cju:=ga uki-ti s-u-N=di=doja.*

会長=TOP あの 人=NOM 受ける-GER する-NPST-IND=QUOT=SFP

「会長は あの 人が 受けて するんだってヨ。」

203) *ama=nu ja:=nu jumi=ja upuwata s-u-N=do:ja.*

向こう=GEN 家=GEN 嫁=TOP 大+腹 する-DUR-INDP=SFP

ma:ga ma:ri-N=ja:

係.NOM 生まれる-IND=SFP

「むこうの 家の 嫁は 大きな腹ヲ しているネ。孫が 生まれるネ。」

204) *anu cju:=ja saki ka:gir-aN=do:ja:*

あの 人=TOP 酒.ACC 召し上がる-NEG

「あの 人は 酒ヲ 召し上がらないヨ。」

205) *unu tomato buru aka-du-N=do:ja:*

その トマト.NOM 全部 赤くなる-DUR-IND=SFP

「その トマト、すっかり 赤くなっているヨ。」

つぎの例は、主文は「隠し事」が主語だが、従属文の主語（聞き手）の行動に関わっていて、聞き手の不利益にならないような行動への促しが含意されている。

206) *keQsa haku-cju-tiN ato=ja arawari-N=do:ja:*

いくら 隠す-DUR-ADVR 後=TOP 現れる-IND=SFP

「いくら 隠していても 後は 露見するんだヨ。」

17. =saja:を含む文

saja:を含む文は、発話現場で確認した予想外のできごとを自らに確認するように発する。聞き手が想定されず、独り言のように発せられる。

207) *ne:saN, nama=ru uki-te:=saja:*

姉さん。 今=FOC 起きる-RES=SFP

「姉さん、今 起きたんだネ。」隣室でござござ音がするのを聞いて。気づき。

208) *agizjabijo: garasu=nu su: ko:-ci+zj-e=saja:*

あれまあ。 カラス=NOM 巢.ACC 壊す-GER+行く-RESP=SFP

「あれまあ。 カラスが 巢ヲ 壊して行ったんだネ。」

209) (さっきまでいた人が居なくなっているのに気づいて)

e:zju s-aN-gutu izj-e=saja?

合図.ACC する-NEG-GER 行く-RES=SFP

「合図 しないで (声をかけずに) 行ったんだ。」

210) *anu cju: nu:gara umicimi-tu-te=saja:*

あの 人.NOM 何か.ACC 思い詰める-DUR-RES=SFP

「あの 人、何か 思いつめていたんだネ。」

211) (空を見て)

ku:=ja wa:siki waQ-sanu kuziri=saja:

今日=TOP 天気.NOM 悪い-GER 崩れる.NPST=SFP=SFP

「今日は 天気ガ 悪くて 崩れるネ。」

212) *iQta dateN kiwa-tu=sa=saja:*

貴方達.NOM ずいぶん 頑張る-DUR=SFP=SFP

「あなたたち、ずいぶん 頑張っているネ。」

18. =sani を含む文

sani を含む文は、話し手の判断を伝えながら、相手の同意を求める。二人称を主語にするばあい、対象的な内容が聞き手のことなので、行動の促しが含意される。

213) (金を返してもらえないと不満を言っている人に)

zini=nu ne:-nu=ru ke:s-i:s-aN=sani.

金.NOM 無い-GER=FOC 返す-ABL-NEG=SFP=SFP

「(彼は) 金が 無くて (困って) 返せないんだヨ。」

対象的な内容が聞き手のことなので、行動の促しが含意される。

214) (余計な事を言っって人を困らせる人に)

kuci izjukah-aN-su=ru masj-e=sani.

口.ACC 動かす-NEG-NMLZ=FOC いい-COP=SFP=SFP

「口ヲ 動かさないのが いいだろう。」

215) *umu+tacj-u-nake izi+k-u-su masj-e=sani.*

思い+立つ-NPST 行く+来る-NPST-NMLZ.NOM いい-COP=SFP=SFP

「思い立ったときに 行ってくるのが いいだろう。」

19. =jo:ja を含む文

感嘆文の述語に終助詞 jo:ja が後接し、さらに同意、確認を求める ja:ja が後接した文である。聞き手目当てのない話し手の感情を吐露しつつ、それに同意を求めている。

216) *ama=nu ja:=ja kwa:=ga ma:-ci kimu+nacika-ha=jo:ja:.*

向こう=GEN 家は TOP 子=NOM 亡くなる-GER 悲しい-GER=SFP

「向こうの 家は 子が 亡くなって 悲しいネ。」

217) *zisiN=ci janiNzju buru nagar-ah-aQ-ti kimu+goro-ho=jo:ja:*

地震=INST 家族.ACC 皆 流れる-CAUS-PASS-GER2 肝+苦しい-GER=SFP

「地震で 家族ヲ 皆 流されて 可哀そうだネ。」

218) *anu kwa:=ja mi-ci=N binara-ha-gisa=jo:ja:*

あの.NOM 子=TOP 見る-GER=ADD 病弱-ADJL=SFP

「あの 子は、見るからに 病弱そうだネ。」

聞き手に動作をおこなうよう命令しながら、聞き手に発話内容の確認をおこなっている。

219) *de:kuni mak-u-nu ba:=ja piQ-sa-ku maki=jo:ja:*

大根.ACC 蒔く-NPST-GEN 場合=TOP 薄い-GER-GER 蒔く-IMP=SFP

「大根ヲ 蒔くときは 疎らに 蒔くんだヨ。」

220) *pu:ki pe:-tu-tu ki: sikir-i=jo:ja:*

流行病.NOM 流行る-継続-CSL 気.ACC 付ける-IMP=SFP

「病気が流行っているから 気ヲ つけろヨ。」

221) *wanu=N sin-awa jak-una=jo:ja:*

私=ADD 死ぬ-COND 焼く-PROH=SFP

「私も 死んだら 焼くな (火葬しないでヨネ) ヨネ。」

20. =sje:ja:を含む文

=sje:ja:を含む叙述文は、話し手の不確かな情報を聞き手に確認する。

222) *pe:-ku=ja sicibi: na-i-neja wa:=ru ho:-ti*

s-u-ta=sje:ja:

早い-GER=TOP 節日 なる-GER-COND 豚=FOC 買う-GER

する NPST-PST=SFP

「以前は 節日に になると 豚ヲ 買って (ごちそうを) したでしょう。」

223) *tamunu=ja cju:ku kuNb-aN-kine buru nugi-ti+ik-u=sje:ja:*

餅=TOP 強い-GER 縛る-NEG-COND 全部抜ける-GER+行く-NPST=SFP

「薪は 強く 縛らなければ 全部 抜けていくヨネ。」

224) ja:du aki-ti iQ-ci cju:-nu cju:taN ui=sje:ja:.

戸.ACC 開ける-GER 入いる-GER 来る.NPST-GEN 人-PL=ADD いる=SFP

「戸ヲ 開けて 入ってくる 人たちも いるヨネ。」

【参考文献】

井上祐子 (2001) 「終助詞「ね」と「よ」」『教育国語』4-2, pp.88-110, むぎ書房。

亀井孝・河野六郎・千野栄一(2011) 『言語学大辞典述語編』「終助詞」

陳常好(1987)「終助詞-話し手と聞き手の認識のギャップをうめるための文接辞-」『日本語学』6-10, pp93-109, 明治書院。

野田春美(2002)「第8章 終助詞の機能」『新日本語文法選書4 モダリティー』pp.261-288, 宮崎和人・安達太郎・野田春美・高梨信乃

-
- 1) 本稿の終助詞の定義は、亀井孝・河野六郎・千野栄一(2011)『言語学大辞典述語編』の「終助詞」の項、および井上祐子(2001)に依拠する。亀井孝他(2011,p.674)は終助詞を「文末に置かれ、文の叙述内容にさまざまな法(modd)的意味を与える助詞」と定義し、終助詞が表わす意味は「疑問、命令、感動、同意、確認などさまざまな種類がみられるが、これらは一般に、文の表わす事柄的内容(命題的意味)について話し手がとる心的態度で、(中略)終助詞は、主に聞き手に対する伝達態度(伝達のモダリティー)を表わす」と記述している。井上(2001, p.4.)は「話しあいの場面が、なによりもまず、a)話し手、b)聞き手、c)話しの対象から構成されていて、それらのあいだにさまざまな関係がなりたっているとすれば、これらの終助詞は、そのさまざまな関係を表現しているのである。これらの終助詞は話しの対象をめぐる、話し手と聞き手との関係のあり方を表現している。その関係のあり方は、まがいがなく、対象をめぐる通達と認識とにかかわっている」と述べている。
 - 2) プラス評価の文は採集されていないが、聞き手の行動に対するプラス評価を述べて、その行動を後押しすることが含意されるだろう。

- 3) この文と次の文は形式的には名詞述語文だが、述語名詞の前に置かれている形容詞に話し手の評価があらわされ、その評価に対する同意をもとめている。
- 4) ラ推量形をしり上がりのイントネーションにした単独形式で確認要求を表わすことはできない。ラ推量形は単独で疑いの文の述語としてはたらくことができる。単独で推量文の述語としてはたらくことはできない。推量文の述語になるのは動詞、形容詞、繫詞の連体形とラ推量形に pazi をくみあわせた分析的な形式である。